

日光巡検

高橋 香織

平成元年9月8日。私達1年生にとって初めての宿泊巡検であった。目的地は観光地として有名な日光、しかも“私の巡検は観光になってしまおう”と自らおっしゃる井内先生の引率、ということで単純に期待し、修学旅行にでも行くような気持ちで巡検に臨んだ私であった。

“けごん3号”に乗って東武日光駅に着き、まず第1の目的地である日光市市役所へ向かった。一瞬“これが市役所?”と思われるお城のような建物であったのだが、もともとは旅館用に建築されたものだとして聞いて領けた。

次の目的地の中禅寺湖ダムへ行く前に、華厳の滝を見学することが出来た。今年は雨が多く、秋までに1年分程も降水量があった為に、何と例年の4倍もの水が流れているそうで、ドドド…とお腹の底にひびくような何ともいえない迫力を感じた。私は5年前にもこの滝を見学した事があるのだが、周囲の風景は同じであっても流水量が変わるとここまで趣きが違うものかと思った。

予定通り今度は中禅寺湖ダム管理事務所でお話を伺った。このダムで華厳の滝の流水量を調節するのだそうだ。しかし降水量が少ない時は当然観光客の来ない夜はダムで塞ぎ止めて滝の水をストップさせてしまう……ということになる。日光が観光地として余りに有名になった今、これは仕方ない事ではあるが、“自然の美”に人間の手が加えられていたという事実に、あまりいい気はしなかった。

中禅寺湖を後にして次の目的地、戦場ヶ原へと向かい、この日の予定は終了した。

2日目、9月9日。この日はとにかく“歩いた”の一言に尽きると思う。最初に“湯の家”という旅館で湯元温泉の歴史や湯ノ湖の浚渫事業についてのお話を伺った。ここでは“自然の湧き水でいれたおいしいコーヒー”をごちそうになった。湯の家を出ると、まずは湯ノ湖一周から始まり、湯ノ滝を見学した。滝の真横の階段をずっと滝壺

の方へ下りたのであるが、割合に規模の大きい滝であり、何しろ滝を間近で見るのは初めての事だったので、素直に感動し、“さあ歩くぞ”と意欲に燃えたのであった。しかし次第にいつまで歩くのだろうといった不安を感じはじめ、足が重くなりわずかな段差も気合いを入れて登らなければならなくなった頃、私達は戦場ヶ原の湿原へと突入した。太陽の光に輝いていて私達の背丈ほどもある草の中に、下が湿原である為に木の小さな橋がかかっている、その上を歩くのである。いきなりだったので不意をつかれたこともあり感動は大きかった。不思議なもので足の痛みなど全く感じなくなっていた。

橋が途切れ、砂地にかわったのだが、ところどころ雨の降った後のように水の流れがあった。予想外の出来事で、石を置いて渡る者、跳び越える者もいれば、靴のまま水に入ってしまった者もいた。だがここで私達は、何と道に迷ってしまったのである。井内先生を信じてあっちの枝道こっちの枝道と行ってみるのだが、行き止まりが小さな川になっているのである。こうなったら渡るしかない。と1人ずつ慎重にぐらつく飛び石の上を渡って行き、全員無事に戦場ヶ原から脱出することが出来たのであった……。

やっと終点の三本松までたどり着き、昼食にありつけたのは2時過ぎの事だった。最後に男体山の麓の開拓農場を見学し、いちご畑でお話を伺ったのだが、なんとこの時栽培されていたいちごはクリスマスケーキ用に出荷されるものだそうだ。

以上で全日程を終え、三本松まで戻った私達はあたかも観光客であるかのようなおみやげを買い込んで帰ったのだった。

今回の巡検で、フィールドワークを実際に体験する事によってその“大変さ”と“醍醐味”を味わう事が出来たと、生意気にも思ったのであった。

(9月8日 井内教官指導)